

ナメクジ類

ナメクジ 有肺目 ナメクジ科

Meghimatium bilineatum (Benson)

チャコウラナメクジ 有肺目 コウラナメクジ科

Limax valentiana (Férussac)



■ **加害作物** マメ科作物、野菜、花卉、果樹、たばこ等広範な作物

ナメクジは在来種、チャコウラナメクジは外来種である。ともに葉、茎、花、および果実と、作物全ての部位を食害する。食害痕はヨトウムシ類に似ているが、本種は白く光る這い痕が残るので、区別ができる。ナメクジは殻を持たないため乾燥に弱い。このため昼間は落ち葉やマルチ等資材の下に隠れ、夜間に活動する。したがって、圃場を乾きやすい環境にすること、潜伏場所になるごみや資材をこまめに片付けることが防除につながる。この他、銅線や銅板を圃場まわりに設置することも有効といわれる。薬剤防除では、夜間這い回る際に薬剤暴露されるよう、作物にはムラなく散布する。

カブラハバチ類

ハチ目 ハバチ科

Athalia spp.



■ 加害作物 アブラナ科

非常に似て食べ物も同じ種カブラハバチ・ニホンカブラハバチ・セグロカブラハバチの3種が国内に生息する。成虫はいずれもオレンジ色の腹部と黒色の頭部をもち、胸部の模様が異なる。卵は上の写真のように葉裏の組織の中に産み込まれる。幼虫の形態と食害の様子は、チョウ目の幼虫と全く同じである。若齢幼虫は青みを帯びた灰色であるが、成長するにつれて黒色のイモムシとなる。イモムシに見えるが、もちろんBT剤の効果はない。また、化学合成農薬も、チョウ目害虫とは効果が異なる場合があるので、注意する。ただし抵抗性事例の報告はないので、登録のある農薬で簡単に防除できる。

ダイズアブラムシ

ヨコバイ目 アブラムシ科

Aphis glycines Matsumura



■ 加害作物 だいず

全国に分布する。ジャガイモヒゲナガアブラムシとともに、だいの主要アブラムシである。被害はともに、吸汁害そしてダイズモザイク病やダイズ萎縮病などウイルス病の媒介である。ウイルス病の媒介は、例え少発生でも起こりうるので、発生初期のうちに防除することが大切である。吸汁害は、葉、茎および莢を群集して加害する。ジャガイモヒゲナガアブラムシが主に葉を加害するのは異なっている。本種は特に新葉や若葉を好み、葉はひどく縮れあがる。また、莢に寄生された場合は、生育肥大が抑制され減収に至る。

ご使用にあたっては、製品ラベルをよく読み、適切に使いましょう。

デュポン・プロダクション・アグリサイエンス株式会社

〒100-6111 東京都千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー

別段の表示がない限り、®又は™を付した商標は、米国デュポン社又はその関連会社の商標又は登録商標です。
©2017 デュポン・プロダクション・アグリサイエンス株式会社

無断転載を禁ず